

令和 5 年 度

幼稚園教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目(Ⅰ)

注 意 事 項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 氏名、受験番号を「令和5年度 幼稚園教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号をマークしてください。
4. 「解答カード」の中で特に受験番号の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て「解答カード」の解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず黒鉛筆(HB)を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正する時は、プラスチック製消しゴムで完全に消してください。また、「解答カード」を曲げたり折ったりしてはいけません。
「解答カード」が汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に「解答カード」の交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから 50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ⊙ ⊗ ⊕ ⊖

問 1 次の文章は、ある人物の業績について述べたものである。その人物として正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ドイツの教育思想家である。児童神性論に立脚して、人間の発達を人間の神的な本質を外に表すことであると主張し、その発達の助成である教育は、根源的にまたその最初の根本特徴において必然的に受動的、追隨的でなければならず、決して命令的、規定的、干渉的であってはならないと説いた。その幼児教育論への貢献は「遊び」のもつ教育的意義を明確に捉えたことであり、遊びの重要性に基づいて遊具と作業(いわゆる恩物)の体系が考案された。

- ア シュタイナー(Steiner, R.)
- イ ペスタロッチ(Pestalozzi, J.H.)
- ウ フレーベル(Fröbel, F.W.A.)
- エ ヘルバルト(Herbart, J.F.)

問 2 次の文章は、ある教育方法について述べたものである。その方法として正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

「子どもの家」における実践を通して、注意力の集中現象を発見し、子供には自分を育てる力(自己教育力)が備わっているとした。この教育方法は、その力が発揮されるための環境の整備に力点を置くもので、子供の自由な自己活動を援助する教育方法として考案された。

- ア ドルトン・プラン
- イ 直感教授法
- ウ モンテッソーリ・メソッド
- エ プロジェクト・メソッド

問 3 次の①～④の文章は、ある人物の業績について述べたものである。その人物名の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 1900(明治33)年、貧民幼稚園である二葉幼稚園を設立し、フレーベルの精神を基本とする保育を実践した。二葉幼稚園は1916(大正5)年に二葉保育園と改称し、内務省所管の保育所となった。
- ② 東京女子師範学校附属幼稚園の初代監事(園長)。首席保母松野クララの通訳を務める一方、外国幼稚園書を参看して『幼稚園記』、『幼稚園法二十遊嬉』を著し、創設期の幼稚園教育の基盤をつくった。
- ③ 1936(昭和11)年、保育問題研究会を結成し、会長に就任した。「社会中心主義」を主張し、新しい「協同社会」を建設しうる「生活力」のある子供の育成を期した。著書に『幼児教育論』、『生活技術と教育文化』などがある。
- ④ 明治後期に東京女子高等師範学校助教授兼同校附属幼稚園批評係に就任し、恩物中心主義の保育を批判して、遊びを中心とする保育への転換を求めた。主著『幼稚園保育法』は日本における体系的保育論の端緒である。

	①	②	③	④
ア	野口幽香	関信三	東基吉	城戸幡太郎
イ	関信三	野口幽香	東基吉	城戸幡太郎
ウ	城戸幡太郎	東基吉	野口幽香	関信三
エ	野口幽香	関信三	城戸幡太郎	東基吉

問 4 新生児の視覚について述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 出生時はまだ目が見えていない。
- イ 新生児は顔のような刺激を注視する。
- ウ 新生児は色相の区別がうまくできない。
- エ 新生児は動いているものをスムーズに目で追いつけることができない。

問 5 乳児の定型発達の様として適切なものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 生後3か月くらいになると養育者にだけ微笑を向ける。
- イ 生後4か月くらいから人見知りが見られる。
- ウ 生後5か月くらいに養育者から離れることに不安や苦痛を感じるようになる。
- エ 生後6か月くらいに養育者へのアタッチメント(愛着)が形成される。

問 6 乳幼児の記憶の特徴として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 幼児は2歳の時のことを自覚的に思い出すことができる。
- イ 3か月の乳児でも記憶する能力がある。
- ウ 幼児は大人に比べて短期記憶の容量が少ない。
- エ 幼児のエピソード記憶は、出来事についての会話によって影響を受けやすい。

問 7 次の文章中の空欄 ① , ② に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

絵を描くのが好きで自由遊びの時間にいつも絵を描いていた子供に、絵を描くことを頑張ったのでご褒美の賞状をあげたら、その後、自主的に絵を描くことが少なくなりました。このような現象は ① と呼ばれ、ご褒美をあげたことで ② が低下してしまったために起こるものである。

- | | ① | ② |
|---|-------------|---------|
| ア | アンダーマイニング効果 | 内発的動機づけ |
| イ | アンダーマイニング効果 | 外発的動機づけ |
| ウ | 学習性無力感 | 内発的動機づけ |
| エ | 学習性無力感 | 外発的動機づけ |

問 8 発達心理学に関する理論や概念とそれに関連が深い人物の組合せとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 発達の最近接領域 —— ヴィゴツキー (Vygotskii, L.S.)
- イ アイデンティティ —— エリクソン (Erikson, E.H.)
- ウ 同化と調節 —— ピアジェ (Piaget, J.)
- エ 社会的学習理論 —— スキナー (Skinner, B.F.)

問 9 次の文章中の下線部を説明する理論として最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

A児(3歳)は、予防接種を受けるため、母親とともに病院を訪れた。注射を打たれたA児は、痛みにより大きな声を上げて泣き出した。その後、A児は病院の看板を見ると怖がるようになった。A児が病院の看板を怖がるようになったのは、恐怖が学習されてしまったためと考えることができる。

- ア 古典的条件づけ
- イ 観察学習
- ウ オペラント条件づけ
- エ プログラム学習

問10 次の各文は、「学校教育法」(昭和22年法律第26号)の条文である。文中の空欄 ① ～ ④ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第23条 幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 健康、安全で幸福な生活のために必要な ① 習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- 二 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、 ② の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- 三 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び ③ の芽生えを養うこと。
- 四 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、 ④ の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- 五 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。

	①	②	③	④
ア	基本的な	自律及び協働	思考力	言語
イ	日常的な	自立及び共働	判断力	言葉
ウ	基本的な	自律及び協同	思考力	言葉
エ	日常的な	自立及び共同	判断力	言語

問11 次の各文は、「学校教育法施行規則」(昭和22年文部省令第11号)の条文であり、同第39条により幼稚園に準用される。文中の空欄 ① ~ ④ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第66条 小学校は、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について、自ら評価を行い、その結果を ① するものとする。

2 前項の評価を行うに当たっては、小学校は、その ② に応じ、適切な項目を設定して行うものとする。

第67条 小学校は、前条第一項の規定による評価の結果を踏まえた当該小学校の児童の保護者その他の当該小学校の関係者(当該小学校の職員を除く。)による評価を行い、その結果を ③ するよう努めるものとする。

第68条 小学校は、第六十六条第一項の規定による評価の結果及び前条の規定により評価を行った場合はその結果を、当該小学校の設置者に ④ するものとする。

	①	②	③	④
ア	公開	実態	公開	公示
イ	公表	実情	公表	報告
ウ	発表	実態	発表	通知
エ	公表	実情	公表	告知

問12 「就学前の子どもに関する教育，保育等の総合的な提供の推進に関する法律」(平成18年法律第77号)の条文として誤っているものを，次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア この法律において「幼保連携型認定こども園」とは，義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての満三歳以上の子どもに対する教育並びに保育を必要とする子どもに対する保育を一体的に行い，これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて，その心身の発達を助長することを目的として，この法律の定めるところにより設置される施設をいう。

イ 第三条第一項又は第三項の認定を受けた施設及び同条第十一項の規定による公示がされた施設の設置者は，当該施設において教育又は保育を行うに当たっては，第十条第一項の幼保連携型認定こども園の教育課程その他の教育及び保育の内容に関する事項を踏まえて行わなければならない。

ウ 幼保連携型認定こども園の教育課程その他の教育及び保育の内容に関する事項は，第二条第七項に規定する目的及び前条に規定する目標に従い，主務大臣が定める。

エ 主務大臣が前項の規定により幼保連携型認定こども園の教育課程その他の教育及び保育の内容に関する事項を定めるに当たっては，幼稚園教育要領及び児童福祉法第四十五条第二項の規定に基づき児童福祉施設に関して内閣府令で定める基準(同項第三号に規定する保育所における保育の内容に係る部分に限る。)との整合性の確保並びに小学校(学校教育法第一条に規定する小学校をいう。)及び義務教育学校(学校教育法第一条に規定する義務教育学校をいう。)における教育との円滑な接続に配慮しなければならない。

問13 「幼稚園施設整備指針」(令和4年文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部)に示された「幼稚園施設整備の基本的留意事項」に関する記述として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ICTの活用などにより、学びのスタイルが多様に変容していくこと等を踏まえつつ、環境を通じた教育を実践してきた幼児教育の蓄積を生かし、幼稚園施設全体を、幼児の体験を豊かにし生活や学びの基盤を育む場として今一度捉え直すことが重要である。

イ 現状における幼稚園施設整備の諸課題に対応するため、短期的に目指すべき幼稚園施設像を示し、その上で域内の幼稚園施設の実態を把握し、地域における幼稚園施設の役割等も考慮した上で、短期的な幼稚園施設整備方針・計画(短期実現化計画等)を策定することが重要である。

ウ 多様な教育活動の実施、安全性への配慮、環境負荷の低減、地域との連携を考慮するとともに、域内の幼児数や保育ニーズの将来動向、幼稚園教育の今後の方向等を考慮しつつ、総合的かつ長期的な視点から施設の運営面にも十分配慮した施設計画を策定することが重要である。

エ 幼児期の特性に応じ、また、障害のある幼児にも配慮しつつ、多様な保育形態による活動規模を考慮した施設機能を設定することが重要である。また、その際、教育の内容や方法、設備、園具、遊具等の利用方法を把握するとともに、地域の気候、風土やその季節的な変化、園児の生活習慣等の違いへの対応、周辺環境の活用の可能性等も考慮して、必要な施設機能を弾力的に設定することが重要である。

問14 「障害者基本法」(昭和45年法律第84号)の条文として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア (国及び地方公共団体の責務)

第6条 国及び地方公共団体は、第一条に規定する社会の実現を図るため、前三条に定める基本原則(以下「基本原則」という。)にのつとり、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策を総合的かつ計画的に実施する責務を有する。

イ (国民の理解)

第7条 国及び地方公共団体は、基本原則に関する国民の理解を深めるよう必要な施策を講じなければならない。

ウ (療育)

第17条 国及び地方公共団体は、障害者である子どもが可能な限りその身近な場所において療育支援を受けられるようにしなければならない。

2 国及び地方公共団体は、療育に関し、研究、開発及び普及の促進をしなければならない。

エ (経済的負担の軽減)

第24条 国及び地方公共団体は、障害者及び障害者を扶養する者の経済的負担の軽減を図り、又は障害者の自立の促進を図るため、税制上の措置、公共的施設の利用料等の減免その他必要な施策を講じなければならない。

問15 我が国における教育・保育の状況について述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 幼稚園の就園率(小学校及び義務教育学校第1学年児童数に対する幼稚園修了者数の比率)は、1981(昭和56)年度以降減少傾向で、2022(令和4)年度は40%を下回っている。

イ 2021(令和3)年度において、幼稚園の約90%が預かり保育を実施している。

ウ 2022(令和4)年の保育所等の待機児童数は、2017(平成29)年の9分の1程度まで減少している。

エ 2022(令和4)年度において、幼保連携型認定こども園の数は、幼稚園の数より多くなっている。

出典：「令和4年度学校基本調査」(令和4年文部科学省)

「令和3年度幼児教育実態調査」(令和3年文部科学省)

「保育所等関連状況取りまとめ」(令和4年厚生労働省)